

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1-2

令和 年 月 日

協議会名:当別町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
当別町地域公共交通活性化協議会	JR石狩当別駅南口～とうべつ整形外科～みどり野会館(青山線①) 運行日数 364日 運行回数 1,215回	利用促進のため総合時刻表などを通じて町民へ周知を行った。また、ダイヤ・運行経路などを地域の実態に合わせて随時ダイヤの見直しを行った。利用者の利便性向上及び利用促進策として昨年開発した、バスロケーションシステム等を閲覧できる「とべナビ」アプリの周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。	A 年間利用者数 目標 4,700人 実績 5,241人	人口減少が進む中で、高齢者が多い地区でもあることから、今後の利用促進策は必須であり、予約型線の使用方法やふれあいバスの乗り方などわかりやすく周知し、更なる利用促進に努める。
当別町地域公共交通活性化協議会	JR石狩当別駅南口～とうべつ整形外科～青山会館(青山線②) 運行日数 246日 運行回数 984回	利用促進のため総合時刻表などを通じて町民へ周知を行った。また、ダイヤ・運行経路などを地域の実態に合わせて随時ダイヤの見直しを行った。利用者の利便性向上及び利用促進策として昨年開発した、バスロケーションシステム等を閲覧できる「とべナビ」アプリの周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。	A 年間利用者数 目標 3,300人 実績 3,683人 交通弱者の利用者増加 目標 2,300人 実績 2,728人	目標は達成できたものの、新型コロナウイルスの影響による利用者離れが解消した訳ではなく、今後も引き続き市街地予約型線の使い方等を周知し、更なる利用促進に努める。
当別町地域公共交通活性化協議会	JR石狩当別駅南口～当別町内～JR石狩当別駅南口(市街地予約型線) 運行日数 246日 運行回数 1,439回 【車両減価償却費等国庫補助】	利用促進のため総合時刻表などを通じて町民へ周知を行った。また、ダイヤ・運行経路などを地域の実態に合わせて随時ダイヤの見直しを行った。利用者の利便性向上及び利用促進策として昨年開発した、バスロケーションシステム等を閲覧できる「とべナビ」アプリの周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。	A 年間利用者数 目標 5,600人 実績 6,190人	目標は達成できたものの、新型コロナウイルスの影響による利用者離れが解消した訳ではなく、今後も引き続きダイヤの見直し等、更なる利用促進に努める。
当別町地域公共交通活性化協議会	北欧の風道の駅とうべつ～JR石狩太美駅～ヒルズE5-3-17(西当別道の駅線) 運行日数 364日 運行回数 1,687回	利用促進のため総合時刻表などを通じて町民へ周知を行った。また、ダイヤ・運行経路などを地域の実態に合わせて随時ダイヤの見直しを行った。利用者の利便性向上及び利用促進策として昨年開発した、バスロケーションシステム等を閲覧できる「とべナビ」アプリの周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。	A 年間利用者数 目標 5,600人 実績 6,190人	目標は達成できたものの、新型コロナウイルスの影響による利用者離れが解消した訳ではなく、今後も引き続きダイヤの見直し等、更なる利用促進に努める。
当別町地域公共交通活性化協議会	北欧の風道の駅とうべつ～JR石狩太美駅～太美スターライト中央(スターライト道の駅線) 運行日数 364日 運行回数 546回	利用促進のため総合時刻表などを通じて町民へ周知を行った。また、ダイヤ・運行経路などを地域の実態に合わせて随時ダイヤの見直しを行った。利用者の利便性向上及び利用促進策として昨年開発した、バスロケーションシステム等を閲覧できる「とべナビ」アプリの周知を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施された。	A 年間利用者数 目標 5,600人 実績 6,190人	目標は達成できたものの、新型コロナウイルスの影響による利用者離れが解消した訳ではなく、今後も引き続きダイヤの見直し等、更なる利用促進に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	当別町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>当別町は、札幌市と境界を接し、札幌中心部から約15～25kmに位置しており、面積は、422.86平方キロメートル、人口(令和3年12月1日住民台帳)は、15,443人である。</p> <p>本町のコミュニティバスは、JR石狩当別駅～スウェーデンヒルズ～JR石狩太美駅を經由し、札幌市北区を結ぶ「地域間幹線」と、これに付随する「フィーダー5系統」を確保している。</p> <p>この「地域間幹線」については、札幌市への通勤・通学で利用されているほか、札幌市北区にある大学病院に接続しているため、高齢者等の通院にも多く利用されており、また、大型スーパーも経由していることから日常生活に不可欠なものである。このほか、JR札沼線の一部廃線にともない、令和2年4月よりその代替バスとして「月形当別線(JR石狩当別駅～月形町)」の運行を開始した。</p> <p>フィーダー系統については、基点となっているJR石狩当別駅で幹線と接続し、市街地から離れている青山・みどり野地区から輸送する「青山線」と市街地でのデマンド交通として「市街地予約型線」を運行しており、両系統とも高齢者の通院や買い物に利用され、地域の足として必要不可欠なものとなっている一方、人口減少により利用者の絶対数が増えない中で利用促進を図るには、最適な運行形態を検討し、ニーズに即した交通を提供することも重要となっている。</p> <p>そのような状況の中、「青山線」は、特に青山地区の過疎化により住民増が見込めないことから、平成28年10月に路線の一部をデマンド型交通とするなど運行を見直しており、また「市街地予約型線」については、平成28年3月に路線バス「当江線(当別町～江別市)」が廃止された影響で一部が交通空白地域となったことから、その地域住民の足を確保するため、平成28年10月に運行エリアを拡大するなどの対策を行った。このほか、平成29年9月に開業した「道の駅」へ向かう路線の実証運行を行い、当該施設への誘客や西当別地区における公共交通の充実が図られたことから、JR石狩太美駅で幹線と接続する「西当別道の駅線」の本格運行を平成30年10月より開始した。</p> <p>コミュニティバスの利便性向上・利用促進策としては、令和2年度にLocal MaaS事業としてスマホアプリ「とペナビ」をリリースし、アプリ上でバスの位置情報を確認できる「バスロケシステム」やJRとコミュニティバスとの「乗換案内機能」等を導入したほか、町内主要施設にバス運行情報を表示するデジタルサイネージを設置している。</p> <p>これらの住民に根付いたコミュニティバス・システムを維持し、交通弱者である子どもや高齢者の移動手段を確保することで、住民の住環境の向上、高齢者の行動範囲拡大による健康増進・フレイル予防にも寄与し、公共交通を通じた環境教育による環境意識の啓発にも資することができると考えている。</p> <p>一度失ってしまったバス交通を回復させるために5年の歳月を要したことを考えると、バス路線は容易に廃止すべきものではなく、町民の健康で安全な必要最低限の住環境を守るためにも、地域公共交通の中心であるコミュニティバスを確保することは重要である。</p>